

■ 2022 年度 社会福祉法人なないろ 法人事業報告

1、《事業方針》

障害者の権利を保障し、地域でふつうの暮らしができる地域社会の実現を目指しながら、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されると共に、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する事を目的とする。

2、本年度の展開

1、社会福祉法人なないろの今後 10 年先を見据えた、中・長期計画を作成していく。

→理事長・法人事務局体制の整理、各事業所管理者運営体制の確立。一部利用者の加齢化を念頭に置いた支援体制の整備（GH 等）。会議・研修体制の再確認。資格取得体制の見直し。運営体制の世代交代を意識した職員人事。

2、新たに指名された「理事長職務代理者」「総合統括管理者」を中心に、組織人事の改編を行う。

→職務代理者、総合統括管理者については、期の半ばにて体調不調等となり、その任を解くこととなってしまった。

3、法人設立 10 周年記念事業を縮小し、4~5 月に「記念誌」と記念品を作成・配布する。

→記念誌・記念品等をご本人、家族、職員、関係者に配布。関係者を中心にささやかに法人の節目を確認する機会とした。

4、職員の次世代育成を図る。（育成を踏まえた法人内異動と、責任の分担）

→各事業の管理者・サービス管理者の役割の徹底。管理者の担当事業の把握・実践を深めた。（残念ながら管理者の異動が続いてしまった。）

3~4 年単位で部署異動を原則的に行い、新しい視点や経験を大事にしていく。

5、令和 5 年度 4 月から、グループホームの 24 時間、365 日開所を目指す。今後とも 1 か月の変形労働制を継続する。

→残念ながら、ほっと・ホットを中心とした開所体制の検討は不十分のまま推移。利用者や家族のニーズの変化に柔軟に対応をして行きたい。

[運営推進状況]について

1、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響について

令和4年7月～8月にかけて、コロナ感染症の影響を大きく受けた。利用者やその家族、職員等感染者や濃厚接触者が多く出て、事業所閉鎖が全事業所に及んだ。7/14からうわまち病院に12日間ホット利用者が入院をした。9月に入っても断続的な陽性者、濃厚接触者が出現したが事業所閉鎖には至らずに済んでいる。

2. 事業運営透明性の担保

毎年度末、事業報告冊子を作成・配布している。今年度も事業報告冊子を発刊した。年に4回ニュースレターの発刊を実施。また、法人ホームページに毎年の事業報告等を掲載。

2022年度 「相談支援事業所なないろ」事業報告

はじめに

なないろの相談支援事務所開設後 11 年を経過しました。現在は、法人内利用者と法人外利用者が約 40 名・40 名の半々の方々に対して対応しています。

基幹相談支援センターの下にサポートセンターが地区別に 6 か所あります。なないろは「田浦障害者相談サポートセンター」のグループに特定指定相談事業所として位置づけられています。昨年度は 2 回「湘南アフタケア」「療育相談センター」とともに「地域会議」に参加しています。ケース検討を中心に、各々の相談事業所間の情報交換を実施しました。なないろ相談事業所担当者の加齢化に伴い、そろそろ相談支援専門員の世代交代が必要な状況となっています。

1、利用者支援

対象利用者： 83 名 男性：53 名 女性：29 名 （9 歳～ 64 歳）

- 1) • 一般相談支援事業（移行支援・定着支援）精神の方の退院促進や知的の方の入所支援施設からの地域移行等の事業。（対応実績なし）
• その他一般相談（来所相談、電話相談）（障害者 延べ 56 名）（障害児延べ 11 名）
- 2) 特定相談支援事業（サービス計画作成）（計画 47 件）（モニタリング 168 件）
- 3) 障害児相談支援（サービス計画作成）（計画 6 件）（モニタリング 3 件）
- 4) 障害支援区分認定調査委託事業（5 件）（認定調査員 1 名退職。9 月以降は未実施）

| 相談種類 | 障害者 | | | 地域移行 | 地域定着 | 障害児 | | |
|-------------|-----|--------|-------------|------|------|-----|--------|-------------|
| | 計画 | モニタリング | 一般 (電話含) | | | 計画 | モニタリング | 一般 (電話含) |
| 令和 4 年 4 月 | 3 名 | 10 名 | 5 名 | 0 | 0 | 0 名 | 0 名 | 1 名 |
| 令和 4 年 5 月 | 4 名 | 19 名 | 6 名 | 0 | 0 | 0 名 | 1 名 | 0 名 |
| 令和 4 年 6 月 | 2 名 | 21 名 | 4 名 | 0 | 0 | 1 名 | 0 名 | 1 名 |
| 令和 4 年 7 月 | 6 名 | 8 名 | 5 名 | 0 | 0 | 1 名 | 0 名 | 0 名 |
| 令和 4 年 8 月 | 2 名 | 17 名 | 6 名 | 0 | 0 | 0 名 | 0 名 | 1 名 |
| 令和 4 年 9 月 | 5 名 | 12 名 | 5 名 | 0 | 0 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |
| 令和 4 年 10 月 | 7 名 | 12 名 | 3 名 | 0 | 0 | 0 名 | 0 名 | 2 名 |
| 令和 4 年 11 月 | 5 名 | 12 名 | 5 名 | 0 | 0 | 1 | 1 名 | 1 名 |
| 令和 4 年 12 月 | 3 名 | 23 名 | 6 名 | 0 | 0 | 2 名 | 1 名 | 1 名 |
| 令和 5 年 1 月 | 1 名 | 10 名 | 4 名 | 0 | 0 | 0 名 | 0 名 | 1 名 |
| 令和 5 年 2 月 | 7 名 | 14 名 | 3 名 | 0 | 0 | 1 名 | 0 名 | 2 名 |

| | | | | | | | | |
|------------|-------|-------|------|---|---|------|-----|------|
| 令和 5 年 3 月 | 2 名 | 10 名 | 4 名 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 名 |
| 合計 | 47 名 | 168 名 | 56 名 | 0 | 0 | 6 名 | 3 名 | 11 名 |
| | 271 名 | | | 0 | 0 | 20 名 | | |

支援の方向性（総括）

- ・利用者本人との面談の機会を大事にしていく。本人の言葉・エピソードを大事にしていく。
- ・新規のケースが 2 件増えた。（法人外 2 件）。他法人（市外）異動により 1 名退出。
- ・ケース会議については、計 14 回開催。「生活介護移行の件」、「不登校や自宅での粗暴行為」、「精神科病院退院後の地域移行について」、「グループホームでの粗暴行為と受け入れ中止について」、「病院退院後の受け入れ態勢について」、「フィッシング詐欺によるクレジット請求対応」、「GH 入居のための事前会議」、「施設における本人の粗暴行為対応について」等の内容。

一般相談

- ・独居で自宅で生活している方が 2 名。1 名はてんかん発作等の体調をかばいながら就労継続 A 事業所に勤務。金銭管理が不十分、クレジットサイト利用等課題多く。支払の請求が多く来ている。他の 1 名は生活保護を利用、眩暈の症状が悪化したり、交通事故に遭遇。受診相談や保険会社との対応を実施。
- ・2 年間、複数短期入所利用を継続していたが、難病を併発。約半年間入院し、退院後の行き先を調整。
- ・20 年以上自宅からあまり外に出られない方が 2 名。本人やその家族を支える訪問介護事業所や移動支援事業所が複数個所欲しい。
- ・学校・放デイ・家庭等で粗暴行為頻発。各事業所間と学校との協議・会議を調整。思春期や過敏性自閉症の特性理解や対応について、特総研とのパイプを特って行く。

サービス計画作成（モニタリング）

- ・3 か月もしくは 6 か月に一度のモニタリングを実施。ライフステージ上のイベントや緊急性がある以外は、定型化して簡易なスタイルで実施検討。

児童相談

- ・障害児の計画相談は、現在 6 名。うち 1 名が高等部 3 年生。就労 B の事業所に入所が出来た。

認定調査委託事業

- ・市からの委託で月 1~2 名ペースにて認定調査を実施。稼働できる認定調査員資格者が

9月から不在になる。現在は活動を中止している。

2、事業所運営

職員：非常勤専従職員1名、常勤兼務職員1名。

- ・1名の非常勤職員は、4月から頑張って相談業務を行ってくれたが、体調を崩し8月いっぱいで他の業務に異動。（以後、非常勤専従職員が、常勤職員体制で従事。）

会議

- ・担当者会議…緊急ケースやステージ変更時で14回開催。
- ・相談事業所地域会議…2回実施参加。
- ・相談支援連絡会全体会…1回実施参加。

研修体制

- ・相談支援専門員初任者研修修了者は現在8名。5年毎の現任研修等継続的に受講したい。
- ・障害支援区分認定調査員研修修了者は6名。9月以降、訪問調査を行える職員が不在となり、以後実施できていない。
- ・社会福祉士現場実習の受入施設として契約。県立福祉大学から1名受け入れ。
(社会福祉士資格取得者の養成や社会福祉士養成実習資格者の確保が必至。)

関係団体との連携

- ・新型コロナウイルス感染症の影響は相変わらず大きいが、個別的な形での情報提供・共有の場を設けて実施。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【サービス計画作成やモニタリング報告作成時に、極力利用者本人と顔を合わせ、意見や思いをくみ取る努力をしていきます。】

- ・コロナウイルス蔓延の為、家庭訪問を拒む家庭が数件あった。本人とは事業所訪問等で顔を合わせるようにした。

【暮らしの場の確保と、本人に合ったグループホームの確保に努める。】

- ・親の加齢化に伴い、暮らしの場を求めているケースが増えている。極力GHを見学し、情報収集をする中で当人に合ったGHを探していく。

【職員の世代交代を目指した、相談支援専門員の確保。】

- ・新しい感覚で、精力的に動ける相談支援専門員を新規に募集していく。

2022年度【ほっと・ピア】総括

・職員体制

2022年度ほっと・ピアは管理者（兼務）1名、常勤職員2名、パート1名で年度末を迎えようとしています。

年度途中でのヘルパーの退職もありましたが今年度末には3名のヘルパーが定年退職となります。社会福祉法人なないろに長年貢献して下さり、移動支援時には的確なアドバイスも参考にさせて頂いていた先輩がたのを感じる日も多かったですですが時間の経過とともに少なくなっています。また新しくヘルパーを志望して下さる方の募集も引き続き行っています。2~3名の応募者の研修も行って契約に結び着くことを楽しみに同行をしています。引継ぎや交代があった時にも利用者さんが安心して過ごしていられる状態をつくれるよう心掛けます。

・ほっと・ピアの移動支援の基本方針について

ほっと・ピアは常に基本的には公共交通機関を利用することを念頭に置いて支援を続けています。しかしながら現状は、曜日によって支援者の人数が不足してしまい、車両でのグループ支援に変更させて頂くことも少なくありません。そしてまだまだ日中活動、グループホーム職員の協力なしには成り立たない日もありました。この点は昨年と変わっていない所でもあります。

法人の基本理念でもあるハンデがあっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていくことの支援を移動・居宅・家事・通院・余暇を通して必要とされるところにヘルパーの派遣をします。

アセスメントの見直しに力を入れ利用者さんの個性をしっかりと引継ぎで伝えることができる様に職員の同行も実施しています。

朝と帰りに少しでも運動量をプラス出来たらと思う一方で利用者さんの加齢がすすむことも考える場面も出てきていますので基本方針に基づきながらも個々に合わせていく支援をできるよう努めます。

・研修体制

昨年度から計画には上がっていましたヘルパーの全体研修を今年度も開催できませんでした。お知らせや変更などがあった時には一人一人にわかりやすく、時間差が少ないように通知していくことを心掛けてきました。

今年度も外部講師によるドライバー研修は、10月に実施しました。ほっとピアの職員にとって、10月という過去に大変大きな事故があった月を、気を引き締めなおし安全運転に対する意識を保ち、車両送迎に取り組む姿勢を1年に1度は見直す機会としています。ドライバー全員で運転姿勢、危険認識の持ち方について講習を受けました。

知らず知らずに習慣化されてしまっている本人では気づかない癖に気づき替えていける良い機会となっています。

・事業所運営について

毎朝の10分ミーティングや、月1回のピア会議については、継続して行う事が出来ました。下半期にそれぞれの担当業務の変更を3ヶ月毎に行いました。それにより全員が全ての業務に精通できる状況づくりをしました。職員間で聞いてなかった、知らなかつたからやらなかつたと言う事が減り利用者さんやご家族、ヘルパーさんに、どんなときにも迅速に変わらない対応で安心してもらえる状況も近くなっています。

各部署との情報共有をこれからも強化していきます。

ヘルパー不足は延々と続していく事象ではありますが新規の募集も希望を捨てずに続けていきます。

・重点目標について

ほっと・ピアは利用者さんの「暮らす」「通う」「遊ぶ」を叶える事業所であるために、安心、安全な送迎をしていきます。利用者さんの安全がご家族やグループホーム職員や通所先職員の安心につながっているように、「今ここ」においての利用者さんの支援で安心、安全に留意する事が利用者さんのまだ見つけられていない「〇〇したい」を聞き出していける事につながると思っています。

そしてヒヤリハット、事故が多かった2022年度でした。利用者さんの負傷につながるかもしないヒヤリハット、事故。幸いにして利用者さんは無事なケースばかりでしたが、確認不足から起こっていることが多いので職員全員で確認し合い未然に防いでいくようにします。

2022年度 「トライⅠ」事業報告

○はじめに

・今年度も職員体制が変わることが多く、安定した体制とは言えませんでしたが利用者の皆様に助けられながらなんとか2022年度終えることが出来ました。管理者としてのトライⅡへの勤務も多くなり、個人的な認識は広がったように思えます。いわゆる障害の特性のようなものはあれども個々それぞれの個性、時間を共有して知らなかつたことを知つていていたと言う方が正しいかもしません。学びや知り得た事をトライⅠでも活かしていくように臨んでいきます。2023年度も職員の離職や勤務体制の変更がありますが社会全体がコロナというものを受け入れて動き始めています。社会との関わり、外に出る機会を積極的に設けていければと考えています。

1、利用者支援

利用者： 8名 男性： 6名 女性： 2名 26歳～ 38歳

給与及び賞与

基本給：日給 150円

手当：年度末余剰手当 3月末に決定 3000円 (前年度は3月に3000円を支給)

賞与：夏季 5000円 冬季 10000円

今年度も非常時の為に貯蓄していた120000円から30000円を降ろし賞与とし補填しました。収入が無くなつた非常時の時を想定しての貯蓄ですので今年度も昨年度と同じ形をとりました。

※今年度も賞与からの旅行の積立はおこなつております。

前年度実績 夏季（7月）5000円(内0円積立金) 冬季（12月）10000円(内0円積立金)

年度末手当 3000円支給

※(月別売上報告は別紙)

○作業・日中活動

作業ではより丁寧な作業を心掛けています。個性的な商品の形を大事にしながら商品としての価値を高める為にできる方には修正を頼んだり出来ることを出来る人が取り組み、手分けをしがらひとつのものを完成させるように取り組んでもらっています。年々、直接ご来店いただきご購入をいただくケースが増えトライの場所を伝える事も増えています。ご高齢の何も食べなくなつたワンちゃんがトライのクッキーは食べてくれるとのことです。

へ配送することも何度かあり、直接、お礼の連絡も頂くようなこともありました。みんなの丁寧な物つくりが伝わったような気がいたします。

利用者会議

- トライワンダフル会議の名で利用者会議を不定期ではありますが行っています。カラオケの選曲や調理のメニュー、デザートのゼリーの味などなど身近な興味を持ちやすいであろう事を議題としています。○×の札を使ったり、カタログを見ながら決を取り、言葉の無いメンバーの気持ちを発信する場、伝える場として大切にしています。

○販売

- 今年度も平成町のハウジングプラザ内での販売の機会を頂きました。他部署の商品も販売して好評です。
- 今年度の障害者キャンペーンの販売は各部署で話し合った上、不参加とさせてもらいました。
- 委託による新しい形によるクッキーの納品、販売のお話も頂いています。

○調理、絵画教室、運動プログラム

・調理実習

毎週木曜日に300円を集めさせていただき、調理実習を実施しています。調理代の余剰金は野外活動の食事代として使い、クリスマスにはピザやデザートに使わせて頂きました。新しいメニューや食べたことのないものを作れるように意識しています。生活の一部であり大切な食べる事、おいしいと思える事の経験と回数が小さな幸せが増やしていくと良いかと思います。

・運動プログラム

- 自粛する機会が多く、出来ることを出来る時にしていく活動になっています。室内でなく、野外にて天気の良い日に長めに歩くようにし、特別なことは出来ませんが出来ることを出来る形で実施するようにしています。

・絵画教室

- コロナの影響を受けずにいつもと変わらない活動が実施出来ました。大切な室内での活動になっています。劇的な変化はありません。続けることで向き合う時間が長くなっています。なないろの実績報告書に使って頂き、彩を添えています。コースカでのプロジェクトマッピングや横須賀ストリートアートなどいつもと違うイベントにも出品しています。

○旅行・外部活動

- ・ミカン狩り、新年のカラオケ大会など実施が出来ました。3月に規模を縮小、時間を短縮し日常的に通っている三笠公園から近くで遠い猿島に行く計画を立てましたが体調不良の方が多く直前で延期とさせていただきました。年度を変えて実施の予定です。

○健康管理

- ・マスクや手洗いなど基本的な感染予防対策を行ってきましたが職員を含め感染してしまう時期がありました。その際には各ご家庭、グループホームのご協力があり、対応させていただきました。今年度の健康診断は医師と看護師がトライに来て身長、体重、血圧、採血など基本的な診断を行い、問診、心電図やレントゲンは「まちの診療所鶴が丘」で行いました。環境が違う中での実施になりましたが大きな戸惑いもなく、受診することができました。

○防災

- ・火災と地震の想定で年に三回、避難訓練を実施し、伝言ダイヤルによる法人本部への報告をしています。伝言ダイヤルはご家族の方も確認することが出来るようになっています。
- ・個別避難計画の一環として徒歩での避難想定しグループホームへの徒歩で帰宅をお休みさせていただきました。2023年度再開の予定ですが状況を見ながら実施させていただく予定です。各自、自宅に帰る想定、練習も想定して必要な訓練計画を立てていきます。

○その他

- ・今年度は武山養護学校から初めての職場体験で1名の方が一緒に過ごしましたが学校からの提案で時間や日数を縮小しての実施となりました。状況の変化に対応することが出来ず、支援らしい支援や活動が出来ずに終わってしまいました。何かを伝えることの難しさを改めて思い知りました。

2、事業所運営

職員体制：常勤 3名 非常勤 1名 パート 1名

- ・管理者とサービス管理責任者が兼任という形になりました。トライIだけでなく、トライOへ勤務の形が多くなっています。来年度、常勤職員の離職と勤務形態の変更になるため1月より新たな常勤職員を配属しています。

会議

- ・毎週木曜日にトライ 1 での部署会議を実施しています。一週間の予定の確認と振り返りと気づきを職員間で共有出来るようにしています。毎日の振り返りの時間を設け記録しています。Zoom にて一か月に一度の日中活動会議を実施しています。利用者の様子や変化を他部署の職員とも共有出来るようにしています。

○研修体制

- ・今年度もコロナの影響により実施された研修が少なく、参加予定の研修も中止になってしまうことがありました。サービス管理責任者の更新研修に参加しています。

3、製菓・製品製造 課題と総括

- ・クッキーの売り上げが主になっており、全体の売上自体は上がっていますが、材料費が上がっている為に数字的には利益があまり増えてはいないのが現状です。卵の高騰もあり、長年、一袋 150 円で販売してきましたが価格や量など見直す時期なのかもしれません。安易な値上げとはせず、みんなが作った良い商品をより多くの人に提供が出来るよう慎重に検討していきます。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

- ・今年度は新メンバーを迎えることになりました。トライという場所がご自分の場所となっていくように迎える側も含めてお互い知り合うことが課題になり、目標になります。働く場であってもお互いに学んでいく、成長ができるような場所になるようにしていきます。利用者の方は 8 人から 9 人の体制になりますが職員の体制は十分とは言えない中、今年度は今までコロナの影響でお休みていた販売やイベントが増えると思われます。活動の幅が縮小していくことのない様に積極的な活動を実施していくようにします。

(1) 一人一人があらゆる可能性にチャレンジしながら、製品作りに参加出来る作業内容の工夫と拡大を図って行きます。

○一人一人の個性を活かし本人たちの得意なことから活動や仕事に繋げ、作業内容を考えるようにしていきます

(2) 集団の中で認められる事を通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間通しの関係作りを進めます。

○自分たちの場所であることを感じてもらえるようにお互いがお互いを認め、過ごしやすい場所づくりを心掛けます。

(3) お客様や地域の人々との関わりを通じて、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを

感じられるような地域との関係作りを進めます。

○直接販売をする機会は減ってしまい地域との関りは減ってしまっていますが今は自分たちの仕事に向き合いしっかりと取り組んでくれています。

(4) 一人一人の願いに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行ながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

○本人が主体の活動となり、可能性のある充実した将来に繋がるような支援計画を心掛けます。

(5) 利用者一人一人の意思を尊重し、自分達の職場として主体的にその運営に関われる条件作りを積極的に行っていきます。

○毎日を当たり前に過ごす場所であり、安心して過ごすことの出来る自分達の場所にしていきます。

(6) 支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえる関係作りに努めます。

○自分たち支援者が利用者と社会との接点であること、最も身近な他人であることを意識して家族との関係も大切にしていけるようにします。

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である使用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関する情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りの為に必要な行動と一緒に取り組んでいきます。

○制度の動向の変化を意識し日常的に過ごす社会の中の自分たちの場所をつくっていきます。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援（実践報告書用）

2023年度は新しい仲間を迎えることになり、支援学校を卒業し働く場所としてトライを選んで頂きました。もしかすると選んでくれたという言葉は違うのかもしれません。彼女だけでなく、トライⅠのほとんどメンバーが自分の決定でここにいるわけではなくの本当の気持ちは察することしかできません。トライⅠの人達は自分で何かを決めていくことが難しい人達です。ご自分の意思とは違うであろう判断でこの場所を離れてしまった方もおります。毎日一緒に過ごしていく、支援をしていく立場の人間としてはどんな状況や選択肢の中でも本人の決めた事だからという理由は少なく言い難いと考えています。支援というものが何か正解かは未だに解りませんがこの場所にトライに明日ちゃんと来てもらう、沢山笑ってもらう、ご飯を食べてもらう、家に帰ったらぐっすりと眠ってもらう事でここを選んで良かったのではないかと思うより他はありません。

2022年度 「トライⅡ」事業報告

1、利用者支援

利用者： 11名

男性：7名(グループホーム利用者 3名、内 1名は8月に退所)

女性：4名(グループホーム利用者 1名、短期入所の長期利用者 1名→7月より入院)

年齢：24歳～63歳

給与及び賞与

基本給：150円／日

手当：所属年数による手当て：1年目 0円 2年目 10円／日 3年目 20円／日

4年目 30円／日 5年目 40円／日 6年目以降 50円／(上限)

賞与：夏季（7月）：3000円 冬季（12月）：3000円 春季：なし

前年度(2021年度)実績 夏季 3000円 冬季 3000円 春季 3000円

作業・日中活動

- ・クッキー作り・配達・買物・シール貼り・外販売(トライⅡ前)・調理実習
絵画教室など
- ・プリント(クッキーのパッケージのシール貼りや字の練習・計算など)
- ・クリスマス会・忘年会・書初め・日帰り外出

販売

- ・店頭売り・ともしびショップ(市役所・県立大学内)・長沢ベーカリー店頭・ほっとピア
クールクランうらが SMILE よこすか(ハウジングプラザにて2日間)
サンカフェ(長沢)

※以下はすべて中止となりました。

- ・灯ろう祭り・豊島小フェスタ
- ・県立大学オープンキャンパス・うみかぜ祭・ふれあいフェスティバル
- ・さくらの会
- ・ふれあい作品展
- ・障害者週間キャンペーン(開催はされましたが、納品の準備が出来ず不参加となりました)

調理、エアロビ、絵画教室

- ・調理：調理代￥350（毎月の実施回数を調整しながら月に1階程度実施。コロナの影響により、買い物での感染リスク、急な勤務変更などを想定して）
- ・エアロビ：22年度は実施していません（会場が使えなかったことや、感染リスクを考え、当面見送りの形としていました）
- ・絵画教室：講師（倉田氏） 講師料￥4000（月1回実施）

旅行・外部活動

- ・文化会館絵画展の観覧
- ・みかん狩り
- ・忘年会（今年はピザを注文してみんなで食べました）

※その他イベントや企画は中止となりました。

健康管理

- ・看護師訪問：1回／月 岩元看護師
　　血圧・体温・体重・脈拍計測・様子の観察、助言、相談
- ・健康診断：9月8日（トライⅡにて身長、体重、血圧など）
　　10月28日（まちの診療所つるがおかにて、心電図、胸部レントゲンなど）
- ・医療懇談会：1回／年 春田医師（中央診療所）・法人各部署

防災

- ・避難訓練3回／年（4月22日、9月15日、2月7日）
　　火災や震災を想定して実施。震災時の避難先は文化会館。
　　「171」の緊急伝言ダイヤルの試用を実施。操作に離れが必要で伝言を残したい先の電話番号を入力する際に、番号を書き出して携帯しておくとやりやすいという方法を部署内で確認しました。

その他

- ・赤い羽根共同募金も事業所での実施という形で参加させて頂きました。少額ではありますが12月末に社協担当者へ募金を収めています。

2、事業所運営

職員体制

- ・常勤2名 新規職員2月より入職しています。
- ・非常勤2名（内1名は月と木にトライⅡに勤務）
　　パート職員2名（月・火・金1名、火・水・木1名）

会議

- ・年度途中より、毎日の振り返り（すべての職員で）の時間を取っています。振り返るだけでなく、最大30分～40分程度で、日々の懸案事項について（利用者さんの様子から、作業内容に至るまで）話すことにより細かな軌道修正が可能になったと思います。
それをメモしながら、参加出来なかった職員にも共有しています。
- 現状としては、時間が長くなる傾向があるため時間で話を区切ることも考えながら行っています。

研修体制

※コロナ禍において、十分研修が出来たとは言えない状況ですが、今後も職員の学び、質の向上を目指して必要な研修には参加していきたいと思います。

- ・リモート参加：6月15日「強度行動障害対策事業（ZOOMにて開催）：齊藤

関係団体との連携

- ・横須賀の福祉を推める会
- ・下町作業所
- ・作業所連絡会
- ・きょうされん
- ・ショートステイ事業所（ピースカラー、しらとり園、愛光園）
- ・移動支援事業所（横須賀ヘルパーステーション、移動支援事業所つぼみ、ピースケア）
- ・生活介護事業所ゆずりは（利用者1名兼用利用）
- ・生活介護事業所けいしんデイサービス（利用者1名体験利用付き添い）
- ・グループホーム郷（利用者1名2月から新規入居）

3、製菓・製品製造 課題と総括

□クッキー（ハロウィンやクリスマスの限定クッキーを製作）

- ・売り上げについては前年度より減っています。関係各所で行事が縮小されていることなども影響しています。
- ・利用者さんが主体的に作業を行うことを目標に今まで取り組んでいます。全体のスキルが上がってきている中で、職員が行う仕上げや焼き上がり具合に斑が出ていることがあり、それらをより統一させることができが品質維持のため必要に迫られている状況があります。注文数が少なくなっている状況の中でこそ、製造工程などの見直しをできると思話し合いの時間を取りながら改善に努めています。

□クッキー以外の販売品としてウッドピンチ（木製のクリップ）の装飾を新たに始めました。 まだ安定的な生産ではないですが、作る利用者さんには楽しんでもらえている様です。

4、今年度重点目標の（運営方針）課題と総括

トライ〈I. II〉運営方針（重要事項説明より）についての総括

- (1) 健康に過ごせることや見通しのつかない状況の中で、利用者さんが少しでも安心や楽しいと感じられたり、やりがいを感じられる事業運営を心掛けたいです。

＜コロナ禍においてイベントや生活習慣に大きく変化が出ており、混乱したりストレスをため込んでいる方も少なくありませんでした。その他にも短期入所やグループホームでの新生活を送る方もおられ、そこから不安定な状態になる事もありました。これらのことについて、トライⅡでは落ち着いて過ごせることも優先に活動内容を変更したり負担が減るよう軽減したりご本人と話し合いの時間を設けたりして対応しました。＞

- (2) 集団の中で認められることを通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間同士の関係作りを進めます。

＜仲間の事を励ましたり心配したり一緒に新しいことに挑戦したりする中で、仲間意識が強まっていることもあります、反面仲間に对しての強い关心から言葉や行動が荒くなってしまう事もあり適度な距離感を必要とする場面もありました。物理的に心理的に適度な距離感の中で仲間同士の関係を維持できるよう、1階から3階まであるスペースを使い活動や食事などの支援を行いました。＞

- (3) お客様や地域の人々との関わりを通じて、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

＜外部での販売や行事が減っていることから、外部の方とのふれあいの場面も減ってしまいましたが、お店の前で販売をする事で常連で買いに来てくださる方とのふれあい、や新規で買って下さる方に事業内容を知っていただく機会を作る事ができました。自分の見ている前でクッキーが売れていることは活動へのモチベーションになっていると感じられます。＞

- (4) 一人一人のねがいに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行いながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

＜利用者さん一人一人の思いを普段の関わりの中から汲み取る努力をしていくと共に、一人一人との話し合いの時間を設定し、願いや思いを聞き取る時間を持った上で個別支援計画作成を継続していますが、コロナ禍において前向きな展望を語り合いにくかったことは心苦しく感じています。＞

(5) 利用者一人一人の意思を尊重し、自分たちの職場として主体的にその運営に
関わる条件づくりを積極的に行っていきます。

<みんなで一緒に行うクッキー作りや、絵画、散歩などである時でも、一人一人の意思や心の状態には違いがあり、その状態に合わせた対応が必要となる事が多々ありました。主体的に運営に関わる条件作りにはまだステップが必要かもしれないですが、一人一人が意思を表明できる関係性、関係作りは徐々に進んで来ていると思われます。>

(6) 支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者から
の発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早
く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえる関係づくりに努めます。

<利用者さんの立場に立って職員としての行動や発言を考えていくよう努めています。利用者さんの様々な形の発信の背景をくみ取る努力を忘れず、職員間で感じたことなどを意見交換して、支援の中の視点に偏りができていないか確認をする事も行ってきました。何事においてもよく考えることを大切にしています。今年度も生活環境に大きな変化のあった方がいました。その方への対応もまさに、思いを汲み取る大切さを日々学びながら支援しています。>

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である利用者、家族に対して、
障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮
らせる社会作りのために必要な行動をいっしょに取り組んでいきます。

<市内での福祉事業に関する制度の動向などについては、事業所の職員として情報の収集から発信まで十分に果たせたとは言えない状況です。研修や関連事業所との情報交換、市内はもとより県内、国内における福祉制度の動向には意識を向けてトライ(事業)の特性に合わせた情報を中心に学んでいく努力をしていきます。
>

2022年度 「長沢ベーカリー」事業報告

1、利用者支援

利用者： 15名

男性：10名 女性：5名

作業・日中活動

- ・室内ではパン作りを中心に買い物、ウォーキングなどの外出活動などを行う。コロナ禍の制限も緩和されつつあり、外部販売も制限前に戻ってきたことで、パンの作成量も増え、作業場にも活気が戻ってきている。
- ・イベントなどは引き続き見送ったが、11月にみかん狩りに参加、1月には新年会で初詣や食事会などを行った。

販売

- ・店舗での販売はコロナ禍に加え、昨年度は長い猛暑期間があり、7月～9月期は売上も減少した。10月に開店9周年と銘打ち、長沢地区の世帯にクーポン付きのチラシを投函。その効果もあって多くのお客様がみえる。それ以降は気候の落ち着きや、コロナ禍の緩和、外部販売の復活などもあり、安定した売り上げを継続できている。
- ・長らく延期していた各養護学校（岩戸、武山、市立）は順次再開、同じく延期していた北下浦コミュニティセンターも週に1回の販売を再開し、ケアホーム三浦（高齢者施設）も再開をした。

旅行・外部活動

- ・2022年度は旅行などの計画は立てなかつたが、利用者からは外出活動の希望は多く、状況をみながら2023年度に実施ができればと考えている。

健康管理

- ・利用者、職員ともコロナの感染があつたが、施設内で広がることはなく、感染者も副作用などを出ることなく戻ることができている。10月～12月辺りは家庭内での濃厚接触者などからメンバーが揃うことが難しい日が続いたが、自宅待機などについてもそれぞれが大きな混乱なく過ごすことができた。
- ・月に1度の看護師訪問は継続しており、バイタルチェックを中心とした健康管理を行つてもらっている。

防災

- ・年に3回の避難訓練を実施。また福祉施設避難計画を作成し、避難場所、経路、人員の役割分担などを確認した。

2、事業所運営

職員体制

- ・常勤職員4名、パート職員7名。コロナの影響（主に濃厚接触者）により、職員配置の必要数ギリギリであったり、外部販売の再開によりパン製造と利用者支援のバランスの維持に追われてしまう状況であった。また職員の入れ替わりなどもあり、1年間安定した職員配置を取ることは難しい状態であった。

会議

- ・毎日の振り返りミーティングを継続、支援のことを中心に話し合いを行っている。

3、製菓・製品製造 課題と総括

- ・コロナ禍に加え6月から続いた猛暑の影響で来客が少なくなり、夏場は授産金のやり繰りも難しい側面があった。10月に開店9周年のイベントを行い、店舗近隣の地区へクーポン券を添付したチラシを配布。その効果もあってか連日多くの客様が見え、暑さが治まったこともあり、それ以降は3月まで安定した売り上げをキープできている。
- ・コロナの影響も徐々に弱まり、秋ごろからは外部販売もほぼ再開し、コロナ前とさほど変わらない状態となっている。色々な所から注文もいただくが、職員体制や利用者の支援状況を考えると全てを受けることは困難であり、できることから受けるようにしている。
- ・原材料費は毎月のように値上がりをしている。極力パンの値段を変えない為にも材料をコストカットしたり、ネットでの購入などで安く抑えるようにしている。また職員の負担を減らすためにも、扱いやすい材料などにし負担を軽減できるようにしている。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【利用者支援】

- ・4月より1名が入所をし15名となる。個々の特性に合わせた適切な支援が十分にできていたかと言ふことは言い難く、職員集団として専門的スキルの構築などは引き続き課題となっている。特に自閉症の利用者さんは季節の変化やスケジュールの把握、他にも様々なことで不安定になってしまい、安心できる環境を整えることも課題点である。要因のひとつには、職員が濃厚接触者になったり、病欠をするなどした影響で職員体制が整わないことも影響している。
- ・開所10年を迎え、利用者やその家族も年齢を重ねている。その中でグループホームでの暮らしが始まったり、短期入所やヘルパー利用を開始したりと、新しいことにチャレンジするメンバーが目立った。特にグループホームでの生活開始は上手くいくこと、いかないことの繰り返しだが、各機関とも連携をしながら現在もフォローワー体制を継続している。

【店舗運営】

- ・コロナ禍の制限緩和により、販売も好調を維持できている。有難いことに様々なところから注文をいただくが、現状の販売だけで手一杯な部分があり、これ以上受けてしまうと利用者支援に影響がでてしまう。支援と販売のバランスはとても難しく、全ての注文は受けられないことが悩ましい部分である。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援

- ・それぞれが取り組んでいるチャレンジをサポートしていくことに加え、他のご家庭からも将来の生活に向けてのニーズは多くきかれている。情報発信を行ながら一緒に取り組んでいけるようにしてきたい。

2022年度 ほっと・ホット 事業報告

はじめに

昨年に続き、コロナ禍の影響はとても大きく、様々な面でグループホームの運営を圧迫したり、利用者の皆さんとの気持ちの揺れなどに表れています。利用者1名・職員2名のコロナ感染はあったものの、それ以上の広がりはなく過ごす事ができました。いつまで続くのは分かりませんが、みんなが安心して過ごせる環境を提供していくことが第一であり、新年度も継続していきたいと思っております。

利用者支援

利用者：男性4名 女性：2名（43歳～50歳）

過ごし方

生活スタイルは大きな変化はありませんが、コロナ禍によって外出の制限があったり、予定の変更などを繰り返しています。メンバー6名の皆さんはそれぞれの受け止め方をしており、休日なども思うような外出ができなくても近くのコンビニなどで昼食を買いに散歩することで納得してくれたり、ドライブで外出することを楽しみにされていました。

健康管理

大きく体調を崩される利用者さんはいませんでしたが、それぞれ通院の機会は増えており、受診内容によってはグループホームの職員が同行をして対応をしています。また車椅子の利用者さんに関しては、訪問マッサージのサービスを導入、2022年2月より週に1回ホーム内で利用しています。

防災

防災訓練についてはこういった状況も踏まえ、最小限にて実施しています。地震などのニュースでも不安に感じる利用者さんもいることから、備蓄品なども含め、様々な対応を継続、検討していきたいと思います。

将来に向けた取り組み

週末の開所は月に2～3回となっており宿泊の利用者は3～4名程度となっています。金曜日も含めてグループホームに宿泊するメンバーが増えており、それぞれ良い表情で過ごされています。365日の開所に向けてスタッフの育成・確保は急務になってきています。

旅行・イベント・余暇活動など

2022年度も旅行や行事などは計画や実施することができませんでした。祝日などの対応は職員とドライブに出かけたり、近くを散歩したりと、ごく小範囲での活動となっています。

ヘルパーや家族と行きたい場所へ出かけ、気持ちをリフレッシュする時間も作っています。特に自閉症の方にとっては、今まで出かけていた場所に行けるということはとても大きく、それは表情にも表っていました。

事業所運営

職員

常勤 2名 支援員パート 8名

調理員 1名 清掃員 0名

会議

職員も宿直や週末の支援やガイドに入ることも多くあり、スタッフ会議の場をなかなか定期的には設けることができませんでした。グループホーム間での会議についてはオンラインで開催をしています。

研修体制

2022年度なし

夜間を含む人員体制

県立保健福祉大学から2名の学生が宿直アルバイトとして加わっていましたが、実習により休みも多く、実質数か月間週1回勤務をしていましたが、その後連絡はありません。長年支えて下さっているパート職員が徐々に定年を迎え、また定年間近となっていることや、週末に対応できるスタッフが少ないとことなど、人材の育成と確保が現状の課題です。

地域生活

地域交流は持つことができませんでしたが、この状況下にあっても大津ボランティアセンターの皆さんに支えていただき、洗濯たたみを行ってくださっています。

今年度重点目標（運営方針）課題と総括

コロナ禍の大変な時期だからこそ、グループホームでの暮らしはいつも通りの暮らしを提供することを目指します。医療面においてはそれぞれが年齢を重ねる中で需要も増えてきており、今後も健康面のサポートは最重要課題になっていきます。またそれぞれの特性に合わせた支援を実施し、積み重ねていきたいと思います。

自己決定に基づく将来に向けての支援

この1年で週末に宿泊するメンバーも増えており、徐々にグループホームでの生活に比重が大きくなりつつあります。体制面で言えば365日開所を開始できる職員体制が課題ですが、利用者の皆さんにもホームでの暮らしを選択してもらえるよう支援と環境をバランス良く整えていきたいと思っております。

2022年度 にじいろのパレット 事業報告

はじめに

コロナ禍と祝祭日開所が始まりグループホームで過ごす時間が多く不安を感じているメンバーもいると思いましたが、普段と変わりなく過ごすことができ全体的には自分の時間を楽しめることができたようにも思います。徐々に緩和されてきているので当初からの明るく楽しく、くつろげる空間でいられる場所であってほしいと感じています。これからも寛げる空間づくりと穏やかに過ごせるような支援が行えていけたらと考えています。

1、利用者支援

利用者： 男性：4名 29歳～41歳

過ごし方

今までと変わらず居室で過ごすメンバーが多いので、スタッフも居室で一緒にTVを見たり、一日の出来事などを話したりもしています。時にはリビングで一緒に過ごしながら会話をコミュニケーションを取るようにしています。移動してきた職員にも良い表情を見せるなどグループホームでの暮らしを続けた中で色々と成長した部分もあるのではないかと思います。

健康管理

年齢を重ねるにつれ生活習慣病の予防・改善が急務となってきています。食事メニューは大きく変わらず、栄養士監修のもとに提供をし、体重の減少がみられるなど改善できた部分が増えました。実家に帰ってしまうと生活パターンが戻り、昼夜逆転であったり、食事量が増えてしまったりなどあるので、パレットでの宿泊日を増やしていくことで、皆さんの健康にも繋がっていくのではないかと考えています。

防災

避難訓練を実施しています。屋外に出る時も戸惑うことなく近隣まで避難することができています。ここ数年、自然災害が増え、建物も河川が隣接している為、今後も連携と協力をしながらスムーズな避難や情報共有を行っていきたいと考えております。

将来に向けた取り組み

2022年度より祝祭日の開所を開始しました。前年度からパート職員のギター弾語りミニライブも継続しながら、普段では感じられない生の音楽を聴くことなどリクリエーションをしながら楽しい空間づくりを作れるようにしています。来年度から数365日開所になります。パレットで過ごす時間が増えたことで、みられない一面もあり将来に向けて良いスタートになったと考えます。

旅行・イベント・余暇活動など

今年度もコロナウィルス影響が強くグループホームで過ごす「のんびり余暇」となりました。午前中はのんびり部屋で過ごし、昼食は自分達で書食べたい物を買物に行くなど過ごし、午後は動画を見たり、カラオケをしたり、みんながリビングに集まり楽しむことも出来ました。

2、事業所運営

職員

常勤1名 支援員パート3名
調理員1名 清掃員1名

会議

パソコンやスマートフォンでのリモート会議を中心でしたが、徐々に対面でおこなうことが出来ています。スタッフ数は少数で普段から顔を合わせる機会も多いので情報共有は難しい事ではありません。日々の振り返りや、予定の確認などは管理者と主任で電話確認を行いながら進めました。

研修体制

今年度は研修への参加はありませんでした。

夜間を含む人員体制

コロナウィルスの影響や体調不良等でお休みを頂くことがありました。他部署の応援などを受けながら乗り切ることができました。朝の出発の流れで切り替えられない日もほぼなく、スタッフで対応できるようになっています。

地域生活

小さな変化ですが、回覧板を持っていくなどご近所との触れ合いが増えてきています。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

今年度から職員の移動に伴い、はじめは影響を受けるメンバーもいるかと思いましたが、普段と変わらず安心して宿泊ができ、それぞれの楽しみ方や、スタッフとメンバー間のコミュニケーションも増えているので、引き続き不安も受け止められる環境、体制の継続を目指します。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

大きな事故もなく、日々の宿泊に関しては 4 名全てのメンバーが落ち着いて過ごせています。ご家庭の希望としては土日含めた 365 日の開所であります、メンバーの皆さんにとってはまだまだご実家とホームをバランス良く利用したい想いがあるようにも感じています。徐々にではありますが、ご自分の意志でパレットの生活を選択できるよう、安心、安全な暮らしを提供していかなければと思います。

2022年度 にじいろの奏 事業報告

はじめに

2022年度は、メンバー、スタッフとコロナの影響を受けてしまいました。奏では、メンバー2名が、陽性となり、スタッフも2名の陽性者が出了為、やむを得ず奏閉所の事態となりました。幸い重症には至りませんでしたが、まだしばらくの間は、油断できない生活が続いて行く事と思います。今後も、この環境の中で過ごせることを考え、引き続き取り組んで行きたいと思います。

1、利用者支援

利用者： 女性：4名 27歳～47歳

過ごし方

それぞれ居室、リビングと好みに合わせた生活をされています。食事の時間については、昨年同様蜜を避ける為、2グループに分けての食事を実施、手洗い、消毒、マスクなどの感染対策は、スタッフは勿論のこと、順応出来るメンバーには、協力して頂いています。

健康管理

検温を含む体調の観察は勿論、メンバーの体重の増加もあり食事のメニューと摂取量にも気を付け取り組みました。また感染症対策として体温計の消毒、加湿器の使用、換気などの対応に努めました。日々の健康管理については、例年同様月に一度の看護師の訪問の際に相談をさせていただき、各ご家庭にも報告をし、気になる部分についてはご家庭と個別に面談するなどして一緒に取り組んでいます。

防災

パレット、奏合同で避難訓練を実施しています。メンバー、スタッフが、屋外に出て近隣までの避難としました。最近も地震が頻繁に発生しています。実際に避難する時間、持ち物などを考えるとスムーズにはいかないことを考慮し、色々な場面を考えた訓練も行っていかなければと考えています。防災グッズの点検なども計画を立て、賞味期限などの確認、補充も行って行きたいと思います。

将来に向けた取り組み

金曜日の開所がスタートしました。パートスタッフも増員し、ギリギリの人数ではありますが連携を取り、日々の支援に力を注いでいます。体制的には、奏・パレット・ほっと、グループホーム一丸となってホローし合いながら安定した支援を目指します。その為には、突然のアクシデント、スタッフの補充などにも即座に対応できるチームワークを目指して行きたいと考えています。

・旅行・イベント・余暇活動など

引き続き、旅行、イベントなどの参加、余暇での外出、などは一切行えませんでした。室内で過ごす環境の中で、誕生日、クリスマス、七夕などの行事は、密を避けケーキを食べたり、シチュエーションに応じた食事を提供したり、季節に応じた室内的装飾、昼食なども宅配で好きな物を注文するなどして、ささやかですが楽しんで頂きました。規制も大分緩くはなりましたが、今後も外出の制限が予想される中で、様々な工夫をしながら室内でも楽しめる時間が作れればと考えております。

2、事業所運営

職員 22年度 常勤1名(週5日) 常勤1名(週1日) 支援員パート4名

調理員1名 清掃員1名

23年度 常勤1名(週5日) 常勤1名(週1日) 支援員パート4名

調理員1名 清掃員1名

会議

密状態を避ける為、GH会議は月に一回ZOOMで行い、奏会議については、人員不足の関係もあり、余り開催ができませんでしたが、新しいスタッフを迎える、支援も安定し、11月より2ヶ月に1度を目途に、再開しています。情報の共有、問題点などの相談や報告を行い、なるべく話し合うスタイルを取って参りたいと思います。

夜間を含む人員体制

職員体制として女性のスタッフのみの配置は、昨年同様変わらず 21:00 迄は、遅番含め二人体制での支援となっています。夜勤スタッフに欠員が出た際は、応援若しくは、常勤スタッフが対応して参りました。昨年度は日中活動の現場からも応援に来てもらい、かなり助けて頂きましたが、今年度は、グループホーム間で助け合えるよう努め、情報なども共有しています。

研修体制

今年度も研修への参加はありませんでした。

地域生活

引き続きコロナの影響もあり町内の活動やご近所との触れ合いも少なくなってしまった 1 年でした。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

スタッフも増え体制としては万全と言いたいところですが、まだまだコロナ禍の中日々奮闘しています。閉所後は、メンバー・スタッフ共に問題なく過ごせていますが、まだまだ油断できない所もあります。先ずはスタッフも健康に気を付けて万全の体制を整え、皆さんが安心して過ごせる環境を目指して行きたいと思います。健康面でのサポート、消毒、マスク、手洗い等をより一層強化し、引き続き感染防止にも努めて参ります。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

メンバーがまだ若いこともあります、皆さん元気に過ごされています。ずっと奏に居たい方、週末の帰宅を楽しみにされている方、将来的には 365 日の開所が待っていますが、まだまだご実家との生活の両立に気持ちが揺れたりと、皆さん様々な思いで生活されています。これからも将来に向けて、様々な問題があると思いますが、心穏やかに、居心地の良い居住空間を提供出来るよう目指して行きたいと考えています。